



ユーザー定義ルートの使用上のガイドライン

Cisco Catalyst 8000V ルートテーブルの概要

このセクションでは、ユーザー定義ルートを決してルートテーブルに追加するのに役立つガイドラインを提供します。Microsoft Azure Marketplace テンプレートを使用して仮想ネットワークに Cisco Catalyst 8000V を展開すると、Cisco Catalyst 8000V がネットワーク接続を持つサブネットごとにルートテーブルが作成されます。たとえば、Microsoft Azure Marketplace から Cisco Catalyst 8000V の 4 つの NIC バージョンを展開すると、4 つのサブネットが作成されます。各サブネットには、関連付けられたルートテーブルがあります。ルートはルートテーブルに自動的にインストールされません。

ユーザー定義ルートの定義の詳細については、次の Microsoft Azure のドキュメントの「User Defined Routes」セクションを参照してください。 <https://docs.microsoft.com/en-us/azure/>

- 同じ仮想ネットワーク内のユーザー定義ルート (1 ページ)
- 仮想ネットワークまたはオンプレミスネットワーク間のルーティング (2 ページ)
- 高可用性のためのユーザー定義ルート (2 ページ)

同じ仮想ネットワーク内のユーザー定義ルート

既定では、Microsoft Azure のネットワーク インフラストラクチャは、仮想ネットワーク内のすべてのサブネットを相互接続する基本的なルーティングサービスを提供します。Cisco Catalyst 8000V インスタンスの助けを借りずに、同じ仮想ネットワーク内の任意の仮想マシン間でパケットを通過させることができます。

ただし、サブネット間のパケットを Cisco Catalyst 8000V に（フィルタリングや QoS などの高度なサービスを実装するために）配信する必要がある場合は、Cisco Catalyst 8000V インスタンスをネクストホップルータとして指定するサブネットのルーティングテーブルにユーザー定義ルートをインストールする必要があります。

仮想ネットワークまたはオンプレミスネットワーク間のルーティング

Microsoft Azure のネットワークインフラストラクチャは、既定では、異なる仮想ネットワークを相互接続したり、仮想ネットワークをオンプレミスネットワークに接続したりしません。これらのネットワークに接続するには、各ルートテーブルにユーザー定義ルートを作成して、Cisco Catalyst 8000V を各リモートネットワークへのネクストホップルータとして指定する必要があります。ユーザー定義ルートは、デフォルトルートまたは特定の宛先へのルートのいずれかです。Cisco Catalyst 8000V にトラフィックを強制的に通過させるには、デフォルトルートまたは特定の宛先ルートを Cisco Catalyst 8000V を指すルートテーブルにインストールします。



(注) デフォルトルートがルートテーブルにインストールされている場合、すべてのトラフィックは指定されたネクストホップに転送されます。これにより、割り当てられたパブリック IP アドレス (VM への管理アクセスに使用される) を持つ仮想マシンがある場合は問題が発生します。サブネットに関連付けられたルートテーブルにデフォルトルートがある場合、そのパブリック IP アドレスを介して仮想マシンに到達することはできません。



(注) Microsoft Azure は、同じリージョンでホストされている限り仮想ネットワークを相互接続できる **VNET ピアリング** と呼ばれる機能をサポートしています。Cisco Catalyst 8000V 内で VNET ピアリングを使用してサービスを利用するには、Cisco Catalyst 8000V にトラフィックを強制的に通過させるユーザー定義ルートを追加する必要があります。

高可用性のためのユーザー定義ルート

同じ仮想ネットワークに 2 つの Cisco Catalyst 8000V インスタンスを展開して、高可用性のために 1:1 冗長性を提供できます。Cisco Catalyst 8000V インスタンスを高可用性で設定すると、ピアルータの到達可能性が監視されます。Cisco Catalyst 8000V がピアルータがダウンしたと判断した場合、ルートテーブルに自身の IP アドレスをインストールします。これにより、トラフィックは「動作中」の Cisco Catalyst 8000V インスタンスを介してルーティングされます。

ユーザー定義ルートを設定するときは、Cisco Catalyst 8000V のピアルータの 1 つに障害が発生したときにルートテーブルのエントリを更新するかどうかを決定する必要があります。高可用性機能がトラフィックを「動作中」の Cisco Catalyst 8000V にリダイレクトする必要があるルートテーブルの場合は、各ユーザー定義ルートテーブルに冗長ノードを設定する必要があります。

Cisco Catalyst 8000V のピアに障害が発生した場合、冗長ノードによって指定されたルートテーブルのすべてのルートが更新されます。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。